

# 1. QOLニーズの浮上

---

21世紀社会は両極化の矛盾を抱えその扱いに苦慮しています。

グローバル	：	ローカル	（多国籍企業による空洞化、税、インフラ問題）
米国文化	：	日本文化	（合理主義と経験主義の優劣）
都市生活	：	田舎生活	（ストレス社会と過疎化の問題）
高所得者	：	低所得者	（格差社会と再分配の問題）
政治主導	：	国民主導	（政治不信と自己責任意識）

など象徴的です。人々が「経済成長により幸せを求めたのにうまくいかない矛盾」これを解消し本当の幸せをつかむにはどうすればよいのでしょうか。

解消には足して二で割る妥協点をさがすような方法ではなく、双方を肯定し融和した第三のポジションを生み出すような考え方があります。

近年急に浮上した“生活の質的向上（QOL）志向”はこの第三の方向に合致していると考えます。

- ①国や企業ではなく個人単位で考える・・・（自己責任自覚）
- ②お金をなるべく使わないで向上する・・・（経済負担最少）
- ③心の内面を満たし生活の充実を図る・・・（自己実現充実）

といった、自ら前向きに解消しよとする姿勢から“新しい生活様式”が誕生しています。そのQOL活動は都市近郊でコモディティ化する勢いです。